

村岡地域文化遺産 おさんぽMAP

1 茶臼塚板石塔婆 (ちやうすづかいたいしとうば)



村岡集会所西側に設置されている板石塔婆です。高さは3.16m・幅は0.58m 文永10年(1273年)の銘が確認でき、刻まれた文字から9人の子が親への供養の為に建てた碑であることが記されています。市内最大の規模を誇り、熊谷市の有形民俗文化財に指定されています。

2 高雲寺 (こううんじ)



高雲寺は山号を湖東山と称します。曹洞宗(禅宗)の寺院で、承応3年(1654年)に開山されました。天保12年(1841年)には寺子屋が開かれ、明治29年(1896年)までは地域の学び舎となりました。現在の『吉岡小学校』発祥の地となっています。江戸時代以降の歴史的な仏像等や大正の震災への供養塔などが置かれています。

3 村岡樋管 (むらおかひかん)



村岡樋管は、吉見用水が万吉地区から村岡地区に流入する位置にあります。この樋管は用水出口などに造られる構造物を意味するもので、明治23年(1890年)8月の洪水によって大破した木造の旧施設(用水口)を、明治24年(1891年)煉瓦造りでアーチ状のトンネル様式として改良建設したものです。

4 荒川大橋トラス橋 (あらかわおおはしとらすきょう)



荒川大橋は、かつて木造の頃『関東一モダン』と言われていましたが、度重なる洪水に見舞われ、大正14年(1925年)4月に九連トラス橋として生まれ変わりました。昭和56年(1981年)に撤去され、その時に橋の一部が、吉岡地区への入口となる現荒川大橋の南側に保存され、訪れる人々を出迎えています。

5 九頭龍大権現 (くずりゅうだいごんげん)



村岡交差点東側、荒川に向かう手島土手の下に安置されている石造大権現です。高さは約90cmで、2段の台上に装飾屋根を付けた石碑が置かれています。土手の上から落下させて、雨乞いの祭礼に使われていました。建立時期は不明ですが大正15年(1926年)に再建されました。

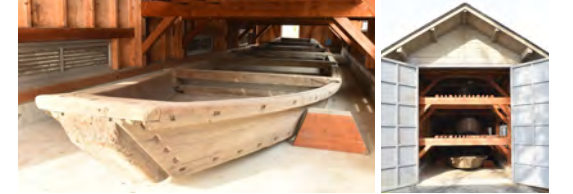
6 石尊宮 (せきそんぐう)



国道407号線沿いに「石尊宮」と刻まれた大きい石灯籠(いしどうろう)が置かれています。「石尊宮」とは神奈川県の大山阿夫利(おおやまあふり)神社・石尊大権現のことで、雨降(あめふり・あふり)の神として信仰を集め、各地に置かれました。全体の高さは約2.8m、寛政2年(1790年)の建立年が記されています。



8 村岡の渡し船 (むらおかのわたしぶね)



江戸時代、荒川の水が増える夏場は渡し船が行き来し、水の涸れる冬場は仮設の橋が置かれていました。江戸時代まで、川を往来する為の渡し船は重要な交通手段でした。村岡の渡し船は明治42年(1909年)に荒川大橋が完成した事により廃止されました。現在、馬船1艘・歩行船2艘が吉岡小学校で保管されています。

7 豊由宇気神社 (とようけじんじゃ)



平安時代後期からの歴史がある村岡村は、古くから吉見神社を鎮守(ちんじゆ)としていましたが、室町時代以降、伊勢神宮をたてまつり、食物・穀物を司る女神である豊受媛神(とようけひめ)を祭神としてお宮が造られました。明治時代初めに現在の名称となりました。